

地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 (第 24 期・第 1 回)
議事録

日時 ; 平成 29 年 12 月 26 日 (火) 12 : 00-13 : 00

場所 : 東京大学地震研究所 1 号館 3 階事務会議室 A

出席者 : 中村尚, 東久美子, 佐竹健治, 中島映至, 中田節也, 中村卓司, 山形俊男

欠席者 : 小池俊雄, 古屋正人

配布資料

資料 1-1 : IUGG 分科会の設置について

資料 1-2 : IUGG 分科会小委員会の設置について

資料 1-3 : 特任連携会員の委員の追加について

資料 1-4 : 前回 Letter of accreditation

資料 1-5 : IUGG 分科会 (第 23 期・第 4 回) 議事録

資料 1-6 : IUGG Gold Medal/Fellowship/ECS award

追加資料 : IAPSO 関連報告

議事

1. 委員長・幹事の選出 (資料 1-1)

- ・出席した委員によって, 中田委員が分科会委員長に選出された. 中田委員長から, 東・佐竹両委員が幹事に指名された.
- ・中田委員長から資料 1-1 に沿って, 分科会委員の紹介があった.

2. 小委員会設置の承認

- ・東委員から, IACS 小委員会の前期の活動報告と, 今期の委員及び委員長内定者の紹介があった. IACS 小委員会の設置が承認された.
- ・中田委員長から, IAG 小委員会の前期の活動報告と, 今期の委員及び委員長内定者の紹介があった. IAG 小委員会の設置が承認された.
- ・中村卓司委員から, IAGA 小委員会の前期の活動報告と, 今期の委員及び委員長内定者の紹介があった. IAGA 小委員会の設置が承認された.
- ・中田委員長から, IAHS 小委員会の前期の活動報告と, 今期の委員及び委員長内定者の紹介があった. IAHS 小委員会の設置が承認された.
- ・中村尚委員から, IAMAS 小委員会の前期の活動報告と, 今期の委員及び委員長内定者の紹介があった. IAMAS 小委員会の設置が承認された.
- ・山形委員から, IAPSO 小委員会の前期の活動報告と, 今期の委員及び委員長内定者の紹介があった. IAPSO 小委員会の設置が承認された.

- ・佐竹委員から、IASPEI 小委員会の前期の活動報告と、今期の委員及び委員長内定者の紹介があった。IASPEI 小委員会の設置が承認された。
 - ・中田委員長から、IAVCEI 小委員会の前期の活動報告と、今期の委員及び委員長内定者の紹介があった。IAVCEI 小委員会の設置が承認された。
 - ・これらの小委員会については、1月の幹事会で承認される予定。
3. 特任連携会員申請の承認（資料 1-3）
- ・IAHS 小委員会委員長に内定している辻村真貴氏、及び、IAG 小委員会の委員長に内定している橋本学氏を、本分科会委員として追加するために、特任連携会員として申請することが承認された。1月の幹事会で承認された後、両氏は本分科会の委員になる。
4. IUGG 評議会への代表者選出（資料 1-4）
- ・中田委員長が IUGG 評議会への日本代表となることが承認され、学術会議会長からの認証状 (Letter of accreditation) を依頼することになった。また、2019 年の IUGG 総会時には、各小委員会の委員長が各 Association の日本代表となるので、同様な承認状を 2018 年末に依頼することになる。
5. 前期からの申し送り事項（資料 1-5）
- ・代表派遣の優先順位は IAHS-IAGS-IACS-IAPSO-IASPEI-IAG-IAVCEI-IAMAS の順であることが確認された。中田委員長から、来年の代表派遣（1 月締切）には申し出がなかったことが報告された。
 - ・申し送り事項である、IUGG 委員会が主催するシンポジウムについて、Future Earth よりも SDG's の方がより適切でないかという意見があった。
6. IUGG の動向
- ・中島委員より、IUGG の動向について報告があった。
 - ・IUGG の Executive Committee が今年の 9 月にモンリオールの国際会議場で開催された。IUGG2019 の General Assembly のサイトビジットも行われた。Science Program Committee は来年 4 月 8 日に開催される予定なので、各 Association や Union のシンポジウムはその際に決定される。それまでに Association からの提案を調整する必要がある（締め切りは 12 月に終了）。
 - ・2019 年の IUGG 総会は 100 周年記念大会と位置付けられており、History Book (150-200 ページ程度) が現在準備されている。1 月には first draft ができる予定。日本の活動・歴史についてもチェックする必要がある。
 - ・若手研究者ネットワークについても重点的に取り組む。YESS (Young Earth System Scientist); APECS (Association of Polar Early Career Scientists) 等がある。

- ・2019年7月29日にUNESCOで百周年のシンポジウムが企画されている。
- ・IUGGからの学会・シンポジウムなどへの資金援助について、2018年分はすでに決定した。2019年は総会があるので、それ以外のものへの資金援助はない予定。
- ・IUGGや各Associationのstatement(声明)やresolution(決議)は有効に働くことがある。2017年にはIUGGから、持続的発展の推進に関わる科学者と政府の責任に関するStatementが出された。IAMASからは、オーストラリアCSIROの気候研究予算削減や、米国トランプ政権の地球観測衛星のキャンセル政策に対してresolutionを出した。
- ・IUGG Geo Risk Commissionの改革にあたって、日本からも候補者を推薦した。
- ・2023年のIUGG総会の開催地の立候補は2019年1月に締め切る予定。
- ・IUGG grants program for 2016-2019の2次募集が現在、出ている(締め切りは2018年3月)。

7. その他

- ・IUGG Gold Medal(応募締切2018年10月20日), IUGG Fellow(応募締切2018年9月20日), ECS(Early carrier Scientist)Award(応募締切2018年6月20日, 40歳以下)について、各小委員会から推薦してほしい。IUGGへは、本分科会から推薦する。
- ・次回は夏ごろに開催予定。上記の推薦については、必要に応じてメール審議する。

以上